

令和5年9月28日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和5年8月分

～令和5年8月 データから見た業界の動き～

令和5年9月28日 発表

コロナ規制のないお盆休みも、D.I値の大きな回復には繋がらず
物価高騰による消費活動の停滞を感じる声が多数



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和5年9月28日 発表

コロナ規制のないお盆休みも、D.I値の大きな回復には繋がらず 物価高騰による消費活動の停滞を感じる声が多数

■ 概 況

8月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業を合わせた全体で

売上高 +4ポイント（前年同月比4ポイント↓）

収益状況 ▲18ポイント（前年同月比2ポイント↑）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比4ポイント↓）となり、

全てのD.I値が前年同月を上回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲10ポイント（前年同月比5ポイント↓）

収益状況 ▲40ポイント（前年同月比±0ポイント）

景況感 ▲35ポイント（前年同月比20ポイント↓）となった。

家具製造業では「物価高騰による消費活動の停滞を感じており、戸建住宅市場の景況感は冷え込んでいる」や、電気機械器具製造業では、パソコンなどの最終製品の需要低迷に伴う半導体製品の在庫調整が解消されず、「売り上げ・仕事量の減少が深刻化しており、この状況が半年先まで続く」と予測している」など、製造業全体の先行きは暗く、景況感D.I値が大きく低下（前年同月と比べ▲20ポイント）した。木材・木製品製造業では、物価高騰による景気の先行き不安から住宅着工数が減少しており、「県外ではプレカット工場や木材業者の倒産が増加している」など、事業の継続に危機感を抱く事業者の声もあった。

非製造業では…

売上高 +13ポイント（前年同月比4ポイント↓）

収益状況 ▲3ポイント（前年同月比4ポイント↑）

景況感 +7ポイント（前年同月比7ポイント↑）となり、

コロナ規制のないお盆休みにより、宿泊施設の稼働状況は好調であった様子が伺えたが、ジュエリー製品卸売業では「展示会等のイベントの来客者数は減少している」や、水産物卸売業では、「飲食店の大人数の宴会や会食はコロナ禍以前の状況にはほど遠い」など、景況感D.I値は前年同月と比べ7ポイント上昇したものの、非製造業全体の傾向とは言えない状況である。

また、「猛暑による体調不良で有給休暇の取得者が続出しており、警備員不足が深刻化している（警備業）」を例に、人手不足が売り上げ・仕事量の回復の足かせとなっており、売上高D.I値が前年同月比▲4ポイント、前月と比べると▲20ポイントと大きく下回った。道路貨物運送業では、燃料価格が大きく上昇しているが、運賃収入は減少しているため、人材確保のための賃上げの原資の確保に苦慮していると報告があった。

物価高騰によって全ての業種で原価が上昇、人手の不足から産業活動が低下、さらに消費活動の減退により、中小企業者の経営は厳しさを増している中、「仕入価格の上昇が続いているが、販売価格への転嫁が行えない（食品小売業）」、「燃料価格は上昇するばかりで、個々の企業努力ではどうすることもできない（山砕石業）」など、中小企業・小規模事業者が今後も事業活動を続けていくために、同じ課題や問題を抱える者同士の連携の力が求められている。

11月に中央会では、物価高騰に対応するための組織力を活かした取引の交渉手段である「団体協約」の実例について学ぶ講習会を開催する。団体協約とは、組合が組合員の取引先に対して協約を締結し、納入する商品やサービスの「最低価格」や「支払条件」など取引の改善を図る中小企業組合の持つ機能のひとつであり、取引先との交渉力・取引条件などを改善する有効な手段である。

その他にも、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化していますので、お気軽にご相談ください。

■ 調査員からの国等への要望・コメント ピックアップ!

加工業者（撚糸、染色、整経）の廃業・倒産が増加しており、経営者の高齢化や後継者不足と併せて産地全体の大きな課題となっている。今後、産地存続のために、関連業種全体で対策を検討して行く場を設けるが、行政にも協力をお願いする局面が来ると考えている。（織物業）

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	お土産品・ブライダル関連の売上げが堅調に推移している。年始に向けたおせちの前倒し受注も好調であり、前年同月と比べ売上げは124.8%となった。
食料品 (洋菓子製造業)	店舗拡大効果と猛暑によりアイスの売れ行きが好調であったことから、前年同月と比べ売上げは109.4%となった。
食料品 (麺類製造)	これまで原材料・資材等の価格高騰分を商品価格に転嫁していなかったが、9月に一部商品の価格改定を予定している。
食料品 (パン・菓子製造業)	例年7月・8月は閑散期であるが、今年は大きな注文が入った。製品価格の値上げ効果もあり、前年同月と比べ売上げは30%増加した。
繊維・同製品 (織物)	原材料（原糸）の入荷不足と価格高騰分の転嫁が進まないことが課題である。また、加工業者（撚糸、染色、整経）の廃業・倒産が増加しており、経営者の高齢化や後継者不足と併せて産地全体の大きな課題となっている。産地存続のために、関連業種全体で対策を検討して行く必要がある。
繊維・同製品 (織物)	裏地部門▶OEMを中心に生産しているが、原材料（原糸）の入荷不足と価格高騰により仕事量が減少している。 インテリア部門▶8月は受注量が若干増加した。 ネクタイ部門▶クールビズの時期であるため売れ行きは悪いが、外国人観光客の土産品としての需要が増加している。路面店に目を向けると客足も徐々に回復してきていると感じる。 傘部門▶猛暑の影響で男性用の日傘の売れ行きが好調である。
木材・木製品製造	ウッドショックが落ち着いたことで木材販売価格が下落している。物価高騰による景気の先行き不安から住宅着工数が減少しており、県外のプレカット工場や木材業者の倒産が増加している。 8月に茨城県で発生した大手木材工場の火災により、今後の木材の流通や価格に大きな影響が出ることを懸念している。
家具製造	受注量は徐々に回復してきているが、物価高騰による消費活動の停滞をまだまだ感じる。戸建住宅市場の景況感も冷え込んでおり、前年同月と比べ売上げ▲10%、収益状況▲5%となった。コロナ禍の時短営業に慣れてしまい、仕事量の増加に負担を感じている従業員が多い。
印刷・同関連業	デジタル化の流れで紙の需要が低下する中、将来性を考えると、若者に人気の業界とはいえない。
窯業・土石 (砂利)	前年同月と比べ製品販売価格は10%上昇したが、燃料・電力・機械部品などの価格高騰による収益の確保が困難な状況が続いている。 地域の工事量によって製品の需要に差があるが、今後、景況感が大きく好転することは考えづらい。計画されている工事が予定通り発注されることを願っている。
窯業・土石 (山砕石)	燃料費の価格高騰分の運搬費への転嫁が全く進んでおらず、前年同月と比べ売上げ、収益状況ともに▲8%となった。燃料価格も上昇するばかりで、個々の企業努力ではどうすることもできず、現状を堪えるしかないと考えている。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	半導体・自動車部品関連の受注量の減少により、前年同月と比べ売上げは▲10%となった。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	8月に入り半導体関連・設備関連の受注量の減少が深刻化しており、前年同月と比べ売上げ▲35%、収益状況は▲30%となった。この先も厳しい状況が続くと予測している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上げは5%増加したが、収益状況は▲5%となった。部品不足が解消されず、過去に納品した自社製品や他社製品の改修工事により売上げを確保している。 一部で、組合組織に入っていないアウトサイダー（一人親方等）の業者が集まり、工場を持たずに安価で製造を受注しているが、品質面や保証の面で問題があると考える。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲40%となった。 半導体業界はパソコンなどの最終製品の需要低迷に伴う在庫調整が解消されず、売上げ・仕事量の減少が深刻化している。この状況が半年先まで続くとの情報もあり、明るい未来が見えない。新規取引先の開拓と経費削減で現状を乗り越えるしかないと考える。

宝飾 (研磨)	8月末に東京で開催された展示会の来場者数は昨年と比べ15%増加した。特に海外のバイヤーが多く来場した。
------------	---

● 非製造業

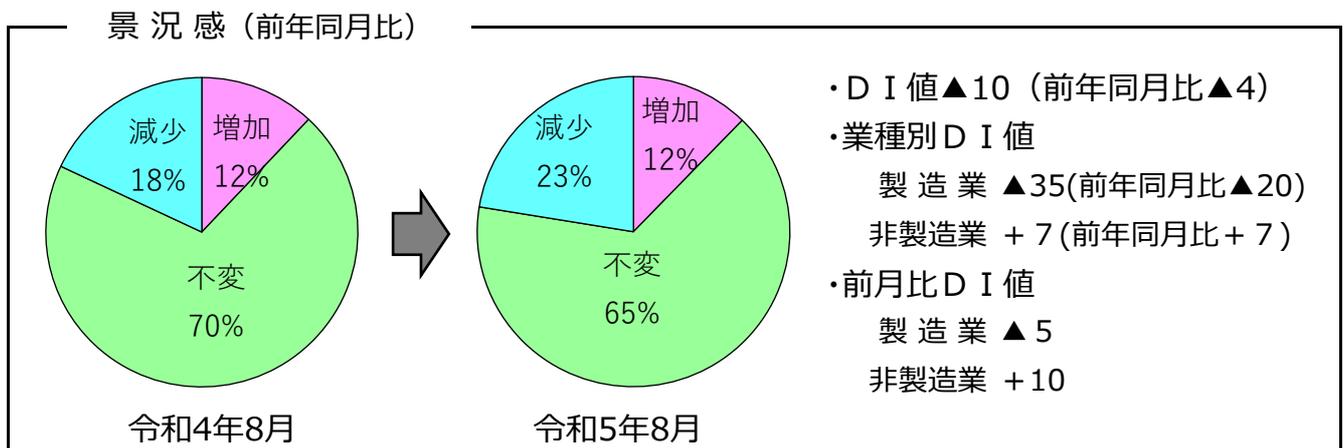
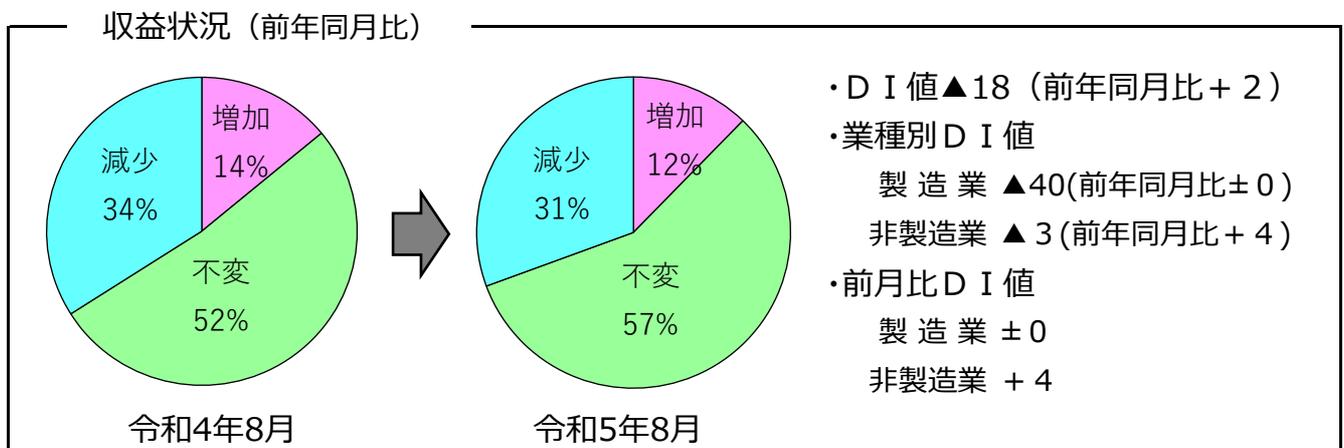
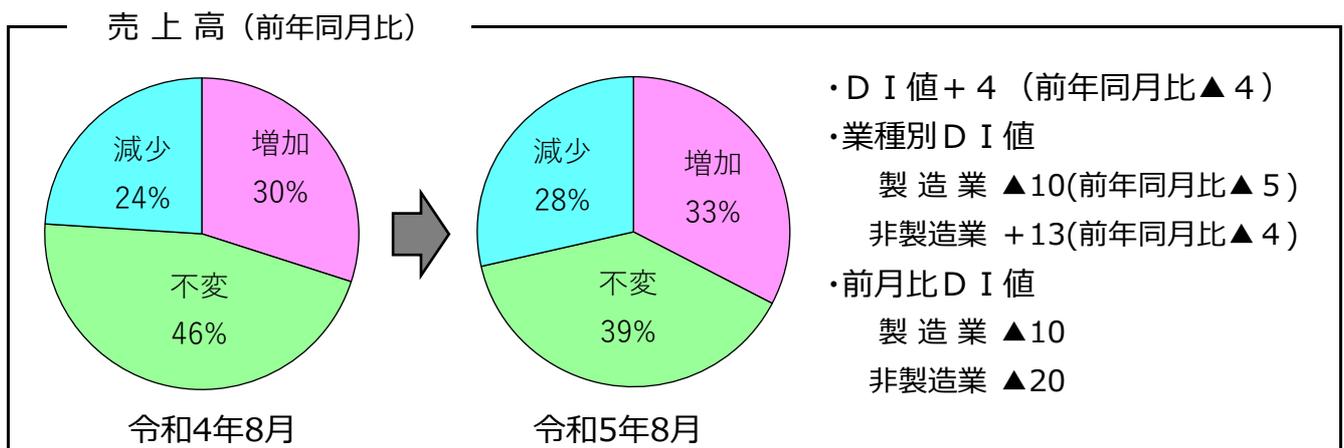
卸売 (水産物)	飲食店の客足が増加しているが、大人数の宴会や会食はコロナ禍以前の状況にはほど遠い。前年同月と比べ売上は12%増加したが、電力・燃料価格の高騰により収益の確保が困難な状況が続いている。
卸売 (ジュエリー)	金やルース(色石)の価格高騰が続いており、収益の確保が困難な状況が続いている。コロナ5類移行により観光地では人流の増加を感じるが、展示会等のイベントの来客者数は減少しており、前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲30%となった。8月から、中国では団体旅行による渡航規制が緩和されたため、インバウンドの増加に期待している。
小売 (青果)	夏野菜の売れ行きが好調で前年同月と比べ売上は11%増加したが、電力・燃料価格の高騰により収益状況は▲2%となった。
小売 (食肉)	飲食店の客足は個人客・団体客ともに徐々に回復しているが、9月以降は仕入れ価格のさらなる高騰を懸念している。
小売 (水産物)	8月は各種商品の仕入価格の値上げが続いたが、販売価格への転嫁は行っていない。
小売 (電気機械器具小売業)	エアコンや冷蔵庫の需要が増加しているが品薄状況であり、売上げ回復の足かせとなっている。
商店街	コロナ5類移行により大月駅の利用客が増加したことで、組合が管理する駐車場の売上げは増加した。7月に開催した「サマーセール」や新企画「ラッキー商店街の日」の実施により商店街の売上げは微増したが、物価高騰の影響から消費者の購買意欲は低下しており、まだまだ厳しい状況は変わらない。
宿泊業	コロナ規制のないお盆休みで人流は大きく増加し、各施設の稼働状況は好調であったが、人手不足によりサービスの提供を制限せざるを得ない組合員もあった。
産業廃棄物処理	前年同月と比べ売上は3%増加、収益状況は4%好転したが、人手不足と修繕費の増加が課題である。燃料価格の高騰に悩む会員の声が多い。
一般廃棄物処理	県内の一般廃棄物広域処理センターの集約化が約7年後に完了予定であるが、運搬距離が極端に遠くなる市町村にとって、収集・運搬コストの増加が課題となっている。また、収集車の搬入可能台数も現行のセンターや各自治体の実績から予測するしかなく、現行の車両がそのまま使えるかどうか分からないため、集約化が実用性のあるものになるのかが不安である。
警備業	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲5%となった。春先より工事・イベント警備ともに警備料金は上昇しているが、猛暑による体調不良で有給休暇の取得者が続出していることや、昨年まで中止されていた花火大会などのイベントが復活したことで、警備員不足が深刻化しており、売上げ・収益状況回復の足かせになっている。
建設業 (総合)	8月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は4%増加したが、請負金額は▲12%となった。8月末累計の件数は▲2%、請負金額は▲5%となった
建設業 (型枠)	働き方改革(建設業の時間外労働上限規制)や、資材価格の高騰により経営状況は悪化する一方である。東京の大手ゼネコンが山梨県の倍ほどの日当で地方から職人を集めているため、県内の職人が多く流出している。深刻な人手不足により受注を断らざるを得ない状況である。
建設業 (鉄構)	鋼材価格はやや値下がり傾向であるが、副資材・溶接材料(ワイヤー等)の価格は今後値上がりすることを予測している。県内の中規模・小規模物件の見積もり依頼が少なく、今年いっぱい先行きが不透明な状況が続くと考える。
設備工事 (電気工事)	設備投資額は僅かに増加したが、半導体など各種加工材料の高騰による収益状況の悪化が続いている。
設備工事 (管設備)	前年同月と比べ売上は39%増加、収益状況は20%好転したが、資材や燃料価格の高騰による厳しい状況はまだまだ続くことを予測している。

運 輸 (タクシー)	12月末まで「燃料油価格激変緩和対策事業」の補助金が継続されるものの、燃料価格の高騰により収益状況が悪化している。
運 輸 (トラック)	「2024年問題」がマスコミに大きく取り上げられたことで、将来への不安から退職するドライバーが増加している。 人手不足が課題であるが、燃料価格が大きく上昇しており、運賃収入も減少しているため、賃上げの元手となる原資が確保できない状況である。

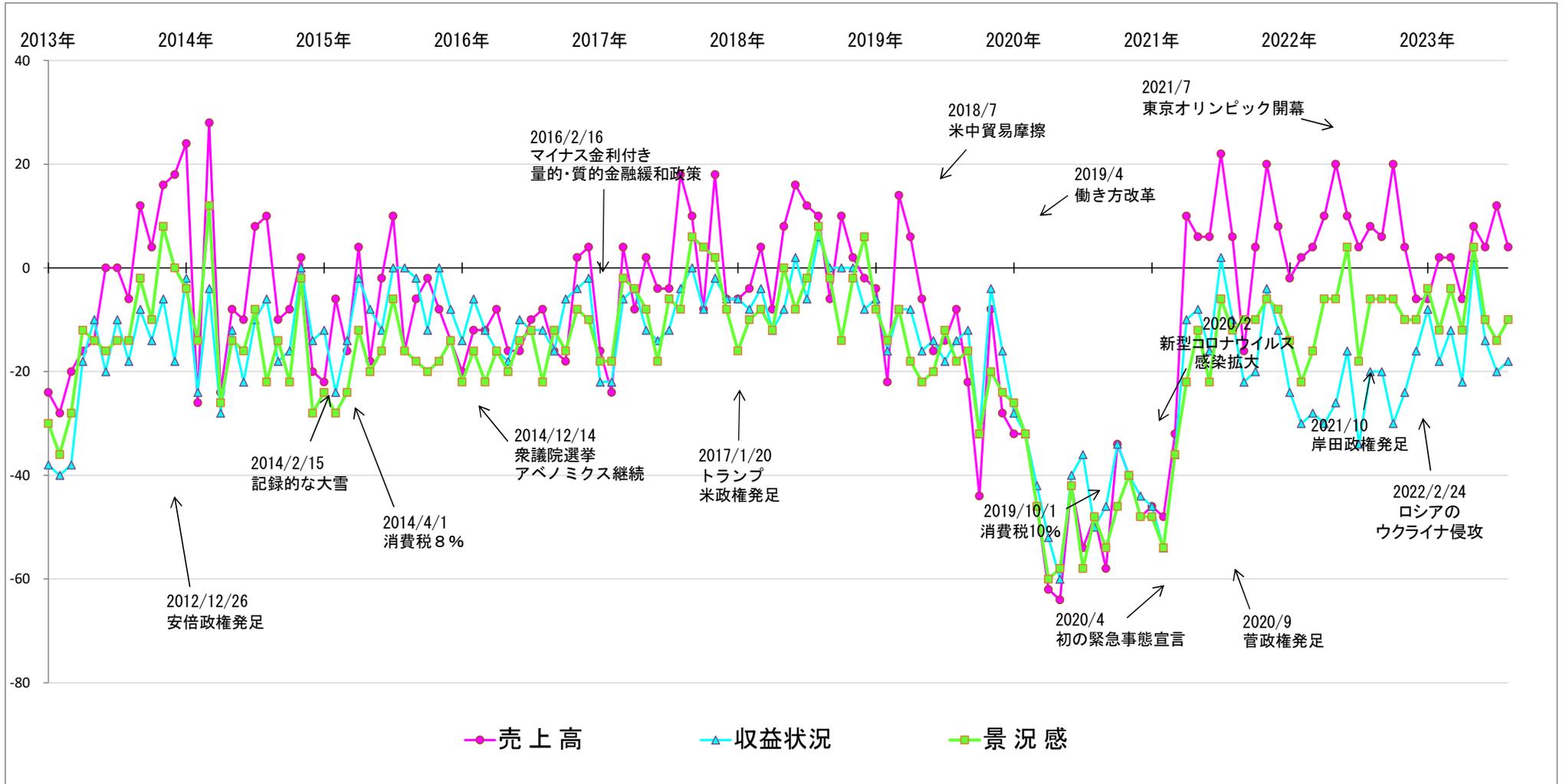
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2022年8月	2023年7月	2023年8月	2022年8月	2023年7月	2023年8月	2022年8月	2023年7月	2023年8月
売上高	▲ 5	▲ 20	▲ 10	17	33	13	8	12	4
収益状況	▲ 40	▲ 40	▲ 40	▲ 7	▲ 7	▲ 3	▲ 20	▲ 20	▲ 18
景況感	▲ 15	▲ 30	▲ 35	0	▲ 3	7	▲ 6	▲ 14	▲ 10

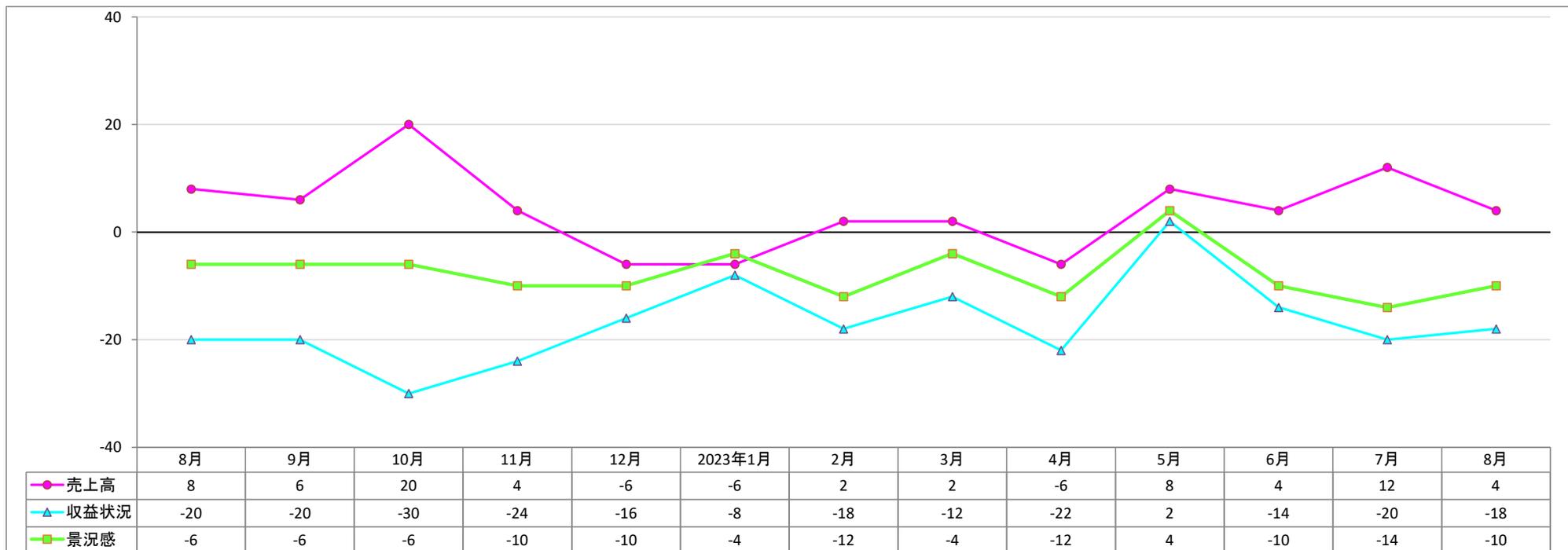
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



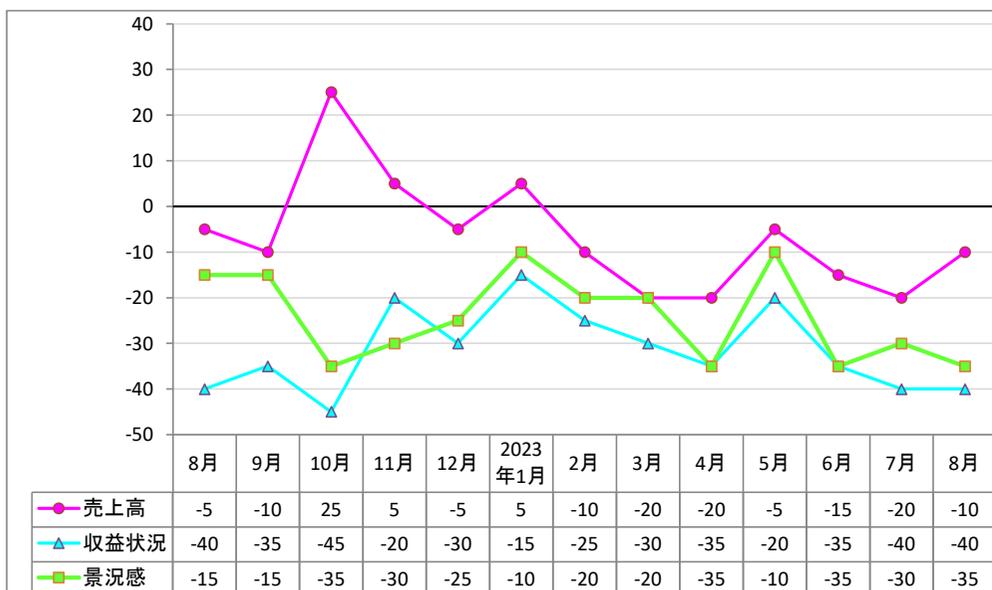
D.I値の推移①(過去10年間) 2013年1月~2023年8月



D.I値の推移②(過去1年間) 2022年8月～2023年8月



【製造業】



【非製造業】

